

## 法律相談の依頼者を経験して

法律事務所職員

山田 太子 (仮名)

いつも思うことである。相談にきた方のお話を聞いているときに、なぜもっと要領を得た話し方ができないのだろうか。話をしている最中に感情も高ぶり、たぶん今回の相談内容には関係ないことまでたくさん話している。うちの先生、結構気が短いはずなのに大丈夫かしらって。

**いざ相談する立場になってみると  
とても冷静でなんかいられない**

しかし、そこはプロ。上手に話の矛先を変えポイントを押さえた質問で、要点を得た回答を聞き出している。さすがである。お客さんは、弁護士に話したことで満足している様子であった。

そんなことを常日頃思っている自分がなんと依頼者を経験してしまった。

相談当日、話の要点をまとめて要領良く、かつ、簡潔に話せるように心がけて準備万端で弁護士事務所へ向かったはずだが……。作成した資料はどこへやら、緊張のあまり頭の中には色々なことが思い浮かび全てが重要に感じ、もれなく伝えなくてはという焦りの気持ちも手伝って、脱線しながら気がつけば長い時間夢中になって話していた(おばさん現象である)。初めて依頼者の気持ちを味わった。

**生活環境にかかわる大問題  
当然、弁護士に依頼すると思いきや…**

そうそう、今回の相談事というのは、今の生活環境が全く変わってしまう開発問題が勃発。突然の看板掲示に驚き、配布された構想書を読み込むうちに我が家はとんでもないことになっていることに気がついた。

1人より2人ということで、住民一丸となって対応する姿勢だったが、なんせ相手はディベロッパーのプロ。専門家を抱えての計画だから、自治会の有志が集まったの対応にもなかなか辛いものがある。

身近に弁護士がいる身としては、当然に早い時期から依頼する態勢で相談をし、直接問題になっているご近所さんにもわかりやすく説明もし、皆さんそろって事務所を訪問して相談をし、先生の現場視察、と着々と準備を進めていった。

当然、全員一致のGOサインがでると思いきや……「自分達で頑張る」と。つまり、弁護士に依頼しないという結果に！ ほんまにいいんかい……。

現実には、もともと手探りで対応している問題だから指針がはっきりしないために、自分達の気持ちも姿勢もあっちに行ったりこっちに来たり。結局、弁護士から「絶対」と言ってもらえなかったことや、費用の点から弁護士に依頼することをためらったようだ。私？ 多少にシコリが残るかもしれないが、当然に依頼した。まだまだ解決には至っていないが、精神的に安心できるものがあり、ホっとしている。

**もっと身近に、  
もっと気軽になって欲しい**

いつでも、もっと身近な法律事務所の存在があって欲しい。また、皆さんにも気軽に相談する気持ちをもってもらいたいとも感じた。先生には緊張するが、あそこの事務員なら会いに行けるわ！と思われるニコニコな存在を目指さなくてはならないと新たな目標もできた。

そして、誰もが最初の一步を躊躇無く踏み出せる、何でも相談できる環境がもっと整って欲しいと強く願う。